



私たちは花が好き。緑が好き。人が好き。

# 園芸福祉ふくおかネット

No.51

2019年5月

令和元年

## ネット通信 花便り

設立 15 周年特集号



### 目次

設立 15 周年祝辞	P2~P6
歴代の代表祝辞・ふりかえり	P7~P9
設立 15 周年記念座談会	P10~P11
苔玉とハンギングバスケット作りの改良を重ねた道のり	P12
久留米の活動 15 年間を振り返って	P13
新聞紙とセメントで作るエコ鉢の取り組み	P14
事務局からのお知らせ	P15

## 園芸福祉ふくおかネット設立 15周年おめでとうございます。

公益財団法人 福岡市緑のまちづくり協会  
理事長 大谷 雄一郎

園芸福祉ふくおかネットの会員の皆様、設立 15周年おめでとうございます。

私が貴団体の皆様（まだ団体設立前の一部の会員の皆様だったかな？）と最初にお会いしたのは、平成 17 年にアイランドシティで開催された全国都市緑化ふくおかフェア（アイランド花どんたく）開催の 2 年ほど前だったかと記憶しています。



私は都市緑化ふくおかフェアの事務局で出展催事の担当をしていたのですが、花どんたくの花と緑のボランティアとしてどう関わっていただくか、どう関わるか。花どんたくの概要がまだ雲を掴むような中、あすみんなで膝を交えて話をしたのを覚えています。

また、花どんたく開催半年前に発生した福岡西方沖地震で被災された方たちの為に、仮設住宅への緑のカーテンや花植え活動で一所懸命汗をかいてらっしゃると言うのがその時の私の印象でした。

花どんたく開催まであと数か月と言う時でしょうか。「会場に園芸福祉の庭『ヒーリングガーデン』を造りたい、造ってえ〜」。当時園芸福祉の意味も良く分かってない私でしたが、皆さんのその熱意と熱心さに絆され、気が付いたら電話を掛けていました。

電話を掛けた先は、当時のアイランドシティ中央公園の建設担当の龍 係長。「え〜っ、今から計画変更ですかあ？もうほとんど出来上がりつつあるんですよお。」当然の答えが返って来ましたが、園芸福祉の趣旨やその目的などを話すと最後は「いいですよ。分かりました。造りましょう」と快く引き受けてくれた龍 係長には感謝ですね。

今でもたまにアイランドシティ中央公園に立ち寄った時は必ず「ヒーリングガーデン」を覗かせてもらいますが、良く手入れがされていて、誰にでも優しく癒されるガーデンを見ると造って良かったなあとしみじみ思います。

花どんたく期間中の「園芸福祉全国大会 in ふくおか」の開催やその後の韓国釜山市との園芸福祉交流。平成 22 年の釜山市での国際交流花壇の制作や式典参加には私もフォーラム出席で一緒させて頂き、皆さんの意欲的で自発的な活動姿勢に只々感服したものでした。

毎年のグリップキャンペーンや福博花しるべでの活動発表をはじめ、様々な福祉活動は福岡市内に留まらず、九州、果ては韓国、台湾とその旺盛な活動意欲には正直舌を巻くばかりです。

アイランド花どんたくを機に始まった緑のコーディネーター制度の拡がり、そして市民による花と緑の活動の活性化は、その先駆者（パイオニア）である皆さんの活動あってこそこの成果だと思います。今後ともその活動がますます多くの市民や企業を巻き込み、福岡市における「花で共創のまちづくり」の牽引役として活躍して頂ければこの上ない喜びです。

園芸福祉ふくおかネットの設立 15 周年を心よりお祝い申し上げます。

福岡市住宅都市局 みどりのまち推進部  
部長 宗俊 隆範

園芸福祉の活動は地域に暮らす様々な人たちが同じ立場で参加し仲間をつくり、草花を育てることをとおした多彩な活動を一緒に楽しみながら豊かな地域社会づくりにつながるものだと伺っております。とても素晴らしい活動ですが本市の花と緑のまちづくり施策との連携でも、2005年に開催された第22回全国都市緑化ふくおかフェア（愛称：アイランド花どんたく）の際に、貴団体より企画提案をいただき、アイランドシティ中央公園に「園芸福祉の庭」を整備する運びとなりました。会期中はお客様に美しい花々を提供いただき、その後も今日まで毎月、花苗の植え替え、灌水、花がら摘み、除草など、綺麗に維持管理していただいております。

また、福岡市都市緑化推進行事実行委員会の委員として、毎年、秋に開催されますグリッピーキャンペーンを始め、年間を通して様々な活動を展開しておられるほか、「緑のコーディネーター（市長の認定制度）」につきましても、制度の発足当初から、園芸福祉ふくおかネットの方に緑のコーディネーターとして活躍いただいているなど、本市の花と緑のまちづくりの牽引役として貢献いただいておりますことを心よりお礼申し上げます。

本市では2018年から花と緑により、まちに彩と潤いを与え、人のつながりや心の豊かさを生み出す「一人一花運動」を展開しており、本年はその輪を広げ、花による共創<sup>\*</sup>のまちづくりにつなげていきたいと考えているところです。

この一人一花運動の一環として、一昨年（一社）福岡市造園建設業協会が福岡市役所玄関前に市民と共働してつくる花壇を整備してくださっていますが、その維持管理にも貴団体に参画いただき、夏の猛暑や冬の酷寒にも負けず、花苗の植え替えから花がら摘みや害虫の駆除、枯葉の清掃まで心を込めて丁寧に行っていただき、きれいで素敵な花壇となっています。

最近では、幼稚園や特別支援学校などにも活動分野を広げられておられると伺っており、活躍への期待がますます高まっているところです。

以上のように、園芸福祉ふくおかネットのみなさまの活動は本市の花と緑による共創のまちづくりに欠かせないものとなっており、今後も引き続きみなさまのご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、今後いっそうのご発展とご活躍を祈念申し上げます。

設立 15 周年、誠におめでとうございます。

※ 「共創」とは

地域や企業・NPO・大学・行政などの様々な主体がお互いの役割と責任を認め合い、相互関係・パートナーシップを深めながら、知恵や力を合わせ、長所や資源を活かして、共に協力し合って、地域の未来を創り出していくこと。

## 園芸福祉ふくおかネットの設立 15 周年、まことにおめでとうございます。

## 花あふれるふくおか推進協議会

皆様には、国産花きイノベーション推進事業における「園芸福祉体験」の実施にあたり、多大なご協力をいただいております。心よりお礼申し上げます。福祉施設や特別支援学校での園芸体験に参加された皆さんからは、「楽しかった」、「またやってみりたい」、「体調がよくなった」などのうれしい感想が寄せられています。これもひとえに、園芸福祉ふくおかネットの皆様の楽しく熱心なご指導のおかげであると感謝しております。

さて、福岡県は全国有数の花の生産地ですが、家庭での消費量はそれほど多くありません。そこで、当協議会では花あふれる豊かな福岡県を目指して、花の生産振興や消費拡大イベント、花育など様々な活動を行っています（写真）。

これからも、子どもからご年配の方まで一人でも多くの人に花の魅力が伝えられるよう、そして、家庭や街が花であふれるように、様々な活動を実施していきたいと思っています。福祉分野での園芸体験についても、皆様の活動の一助となるよう取り組んでまいります。

園芸福祉ふくおかネットの今後益々のご発展をお祈り申し上げます。



## 花あふれるふくおか推進協議会の主な活動



小学校での花育体験



花の生産振興・技術支援  
(ストックの現地検討会)



県産花きのPRと消費拡大イベント

左：県産花きのコンテスト

右：ふくおかフラワーフェアでの小学生フラワーアレンジコンテスト



## 園芸福祉ふくおかネット設立 15周年にあたり

NPO 法人 日本園芸福祉普及協会  
理事長 吉長 成恭



緑が好き！花が好き！人が好き！の園芸福祉ふくおかネットの皆さん、15周年おめでとうございます。

平成16年の中越地震への支援、翌年には福岡西方沖地震被災者避難住宅への緑のカーテン、花みどり支援などから始まった園芸福祉ふくおかネットの活躍は、日本の園芸福祉活動の歴史に残るエネルギーな活動が続いています。同年には第22回全国都市緑化フェア in ふくおかの会場アイランドシティ中央公園に「園芸福祉の庭」を提案し現在も管理をしています。韓国や台湾との交流などアジアにも精力的に園芸普及活動をしてきました。公共空間や地域の緑化活動はもとより、対象も高齢者のみならず花育活動として児童や特別支援教育分野でも協働した活動です。

その活動は、公園行政の理解と都市緑化への啓発が認められ福岡市長より感謝状を、平成30年の第29回全国「みどりの愛護」のつどいにおいて栄誉ある国土交通大臣表彰を受けました。今年で50号を超える広報誌『花便り』は、いつも爽やかで温かいふくおかネットの活躍ぶりがうかがえます。日本園芸福祉普及協会として、いつも園芸福祉ふくおかネットの活動を誇りに思っています。

九州から全国に向けて園芸福祉活動を発信していただいている園芸福祉ふくおかネットの皆さんに、お祝いと感謝を述べたい気持ちでいっぱいです。

平成の時代から次の元号の時代にむかって、一層のご活躍を祈念いたします。



「園芸福祉ふくおかネット」は今年で15年になったとのこと。

これまでのご活躍に敬意を表します。

独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター  
名誉院長 牛尾 恭輔



長年にわたり、会員の皆様方に「九州がんセンターでの花壇造り」をして頂いて来ました。春と秋のみならず、酷暑の夏、雪が降る冬にも、たえず植物たちの世話をさせていただき、花や実が絶えることはありません。

天気の良い時は、入院中の患者さん、その家族の方々が、花壇の周りをそぞろ歩きし、腰をかがめながら、見入っておられます。祖父母、両親、お孫さん達と、3世代にわたる人々の場合も……、花や実たちも微笑んでいるようです。

2年前からは約400ベッドに置いてある無料の院内テレビで、「花の仲間たち(山崎相談役が中心となり活動する団体)」の花壇づくりのシーンのみならず、毎月の花たちを放映しています。そのためか、この花壇の花や実たちを見に来られる人々は増え続けています。皆さんは、変化して行く植物を楽しみにしておられます。今後ともよろしく願いいたします。

## 園芸福祉ふくおかネット 15周年に寄せて

福岡市立特別支援学校「博多高等学園」  
校長 植村 昭博

園芸福祉ふくおかネット設立15周年おめでとうございます。  
心よりお慶び申し上げます。

本校は、軽度知的障がいのある高校生が一般企業の就労をめざしている学校です。就労するための力をつけていくための作業学習を行っています。その中に園芸グループがあり、花壇の整備や寄せ植え作り、清掃活動などに取り組んでいます。園芸福祉ふくおかネットの方々にご来校頂き、フラワーアレンジメント、ハンギングバスケット作り、正月の寄せ植え作りなど、年に5回程度教えて頂いています。生徒たちにとって、プロの方より教えて頂くこと、より本物に近い学習を直接受けることができ、非常に良い学びになっています。完成した作品は、本校のカフェに飾ったり、販売したりして、多くの方に喜んで頂いています。

これも園芸福祉ふくおかネットの方々の優しく丁寧な授業のおかげです。多くのご協力をたまわり厚く感謝申し上げます。

最後に、園芸福祉ふくおかネットの益々のご発展を心より祈念し、挨拶と致します。



ゲストティーチャーのハンギングバスケット作りの説明を、熱心に聞き入る園芸グループの生徒たち



花の向きや植物の高低、花と葉物とのバランスなどを考えながら、器に飾りました



学校入口に咲き誇る、生徒たちが作ったハンギングバスケット

## 初代代表 井本 耕太郎 (平成 16 年度～17 年度)

平成 15 年末から翌 16 年 6 月に掛けて、福岡で初級園芸福祉士養成講座が 3 回開催され、受講者 113 名と他会場で受講していた 2 名の合計 115 名で平成 16 年 7 月 17 日に園芸福祉ふくおかネットが設立され、初代代表に井本 耕太郎 氏が任命されました。

水面下で園芸福祉全国大会の誘致が進められていることを知った上で、組織をまとめるために大役を担って下さいました。「一枚岩にならんといかん」と言われた言葉が今も耳に残っています。

9 月 2 日から静岡で開催された第 4 回園芸福祉の全国大会を視察研修に行き、29 日には官民協働で園芸福祉全国大会準備委員会が動き始めました。翌年 4 月には、第 5 回園芸福祉全国大会 in ふくおか実行委員会が発足し、会員が一つになって走り始めました。

平成 16 年には福岡西方沖地震が発生、翌年 6 月かもめ広場に設けられた仮設住宅でゴーヤのカーテンづくりのボランティアに参加したり、独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター会議室で、初めて自分たちの手で初級園芸福祉士養成講座も開催しました。

9 月から始まった第 22 回全国都市緑化フェア（アイランド花どんたく）の会場で園芸福祉の実践の場として造っていただいた「園芸福祉の庭」での、花壇づくりや苔玉体験講座、ハンギングバスケットの制作展示、草笛コンサートなどの自主企画を出展しました。みんなのエネルギーを一つに集中させ、福岡市役所 15 階講堂で官民協働の「第 5 回園芸福祉全国大会 in ふくおか」を見事に成功へと導くことができました。園芸福祉ふくおかネットの活動実績が認められ、福岡市長より頂いた感謝状が何よりの証であり、私たちの誇りです。

井本代表、お疲れ様でした。

(井本様が体調不良のため、黒瀬が当時を思い出しながら文章にさせていただきました)



2005 年 10 月 29 日全国大会にて  
井本 耕太郎 氏



2005 年 10 月 29 日全国大会



## 2代目代表 西川 直喜 (平成18年度～20年度)

初代井本代表よりバトンを受け取った西川代表は、第22回全国都市緑化ふくおかフェアの会場内に整備された「園芸福祉の庭」を平成18年4月福岡市と管理協定を結び、(財)福岡市森と緑のまちづくり協会(現:(公財)福岡市緑のまちづくり協会)に地域の花づくり団体として認定され、助成金をもって会員で管理を行うようになりました。また、会員による活動事例発表会や園芸福祉体験会など活発な活動が福岡県に認められ、協働で県内各地の総合庁舎に於いて「いきいき園芸講座」を開催するようになります。これまで開催してきた初級園芸福祉士養成講座も県との協働で「花のアドバイザー養成講座」と名称を変え、受講者には県から補助が出るようになり、受講者は16,600円の負担で受講できるようになりました。しかも、受講者には花のアドバイザーの認定と初級園芸福祉士の受験資格が同時に付与されるというもので、当然のことながら受講者が殺到しました。県と連携してきた「いきいき園芸講座」から県委託の「花活用セミナー」へと、会員の活躍の場も増えました。

西川代表が得意とする街路樹ツアーも開催しました。また、釜山・福岡花みどり交流会で韓国との市民交流が盛んになり、アイランド花どんたく2008(現:グリッピーキャンペーン)で日韓緑のフォーラムを開催したり、韓国に行って交流するなど、園芸福祉の活動は大きく海外にまで広がり、園芸福祉ふくおかネットの存在を国内外にアピールできるようになりました。西川代表、スマートな体でエネルギッシュな会員達をまとめて下さってありがとうございました。

(西川様が体調不良のため、黒瀬が記憶をたどりながら文章にさせていただきました)



2005年全国大会 西川 直喜 氏 (写真右)



2008年11月28日 日韓緑のフォーラム開催



2008年 花のアドバイザー養成講座



### 3代目代表 山崎 博子 (平成 21 年度～25 年度)

設立 15 周年おめでとうございます。

緑や花が心に語りかけてくれる、計り知れないちから。癒されたり、元気をもらったりしています。園芸福祉の勉強をしていくうちに、だんだんと花たちがいとおしくなり、みんなに広げたいという気持ちが強くなりました。あれから 15 年たったのですね。でも、その気持ちは今も変わりません。

韓国や台湾との園芸福祉交流、福岡市や県との協力共同関係、「園芸福祉ふくおかネット」の常に福祉を取り入れた園芸活動は優しさで包まれています。組織を維持運営していくには大変なエネルギーを必要としますが、これから先も「花を育ててみんなで幸せに」を合言葉に、前に進んでいきましょう。



### 4代目代表 谷口 博隆 (平成 26 年度～現在)

元号が新しくなるのと時を同じくして、設立 15 周年を記念して広報誌「花便り特集号」(花便りNo.51)を発行できますことは誠に感慨深く、幸せに存じます。

想えば平成 16 年 7 月の設立総会には、福岡市の副市長はじめ関係職員ご臨席のもと、古賀市長、佐世保市長からお祝辞を戴き、初級園芸福祉士など 115 名の会員でスタートしました。福岡市で開催の第 22 回全国都市緑化ふくおかフェア(愛称・アイランド花どんたく)の会場に「園芸福祉の庭」を提案して、ヒーリングガーデンを完成させ、管理協定を締結して現在に至っております。車いす利用の方と一緒に楽しめる 2 基のレイズドベッドの他、視覚に障がいのある方、ストレス解消、子ども達と一緒に楽しめるなど、各テーマに沿った花壇や市民参加で植えつけたハーブなどがあり、子どもさんから高齢者まで、障がいのある方もそうでない方も、美しい癒しの空間としてお楽しみ頂ける園芸福祉の庭は、園芸福祉ふくおかネットの原点でもあることから、月 2 回の管理作業を継続しています。

この他にも園児や児童、生徒を対象に花育活動、特別支援学校や高齢者施設での福祉園芸体験、国営公園や福岡市で行われる様々な花や緑を活用した多くのイベントにも参加出展するとともに、一人一花運動の先駆けとなった福岡市役所玄関前の花壇管理など、多くの場面で福祉的活動を展開しています。設立以来、多くの会員が園芸福祉を実践して学び、その素晴らしさを理解し、それぞれに団体を立ち上げるなど活発に活動を展開して、園芸福祉の向上と啓発に貢献してあることは大変喜ばしいことです。これは初代代表を務められた井本 耕太郎 様、二代目の西川 直喜 様、三代目の山崎 博子 様のご尽力の賜物と敬意を表する次第です。永年の実績が認められて近年各方面から感謝状や表彰状、顕彰の栄に浴しています。私は副代表はじめ役員及び多くの会員に支えられ、ここに設立 15 周年を迎える事が出来ますことを大変うれしく思います。

これを契機として、福祉的活動で社会に貢献し続ける園芸福祉ふくおかネットでありたいと願うものです。結びに皆様のご健康とお幸せ、そしてご活躍を祈念申し上げます。

## ◆ 設立 15 周年記念座談会 ◆

園芸福祉ふくおかネット設立当初から、意欲的に活動を続けていらっしゃる先輩会員青崎 安孝さん、山崎 博子さん、黒瀬 恵子さんの3人に設立時のご苦労された話や楽しい思い出など、懐かしいお話しに花を咲かせていただきました。



山崎 博子さん

## Profile

入会/平成 16 年(1 期生)  
平成 18 年 副代表・事務局長  
平成 19 年～20 年 事務局長  
平成 21 年～25 年 代表  
平成 26 年～現在 相談役

花や植物に関心があり、園芸福祉に魅力を感じる人たちが集まる園芸福祉ふくおかネットですが、設立当時のことを聞かせてください。

**青崎:** 退職後に園芸療法を学び、地域で森や植物などのボランティア活動をしていた時に、初級園芸福祉養成講座のことを知り受講しました。受講後は古賀と福岡を行ったり来たりしながら設立準備に向けて忙しく動きました。あの頃はみんな若くて情熱がみなぎってましたね(笑)。

**黒瀬:** 花好きパワーが一致団結して、平成 16 年に園芸福祉ふくおかネットを設立し、初代代表の大役を井本 耕太郎さんが担って下さいました。第 5 回 園芸福祉全国大会 in ふくおかの開催や第 22 回全国都市緑化ふくおかフェア(アイランド花どんたく)で自主企画の苔玉教室を開催するなど、楽しくも慌ただしい思い出に残る日々でした。

**黒瀬:** 苔玉教室のスタッフには多くの会員の方が参加してくださって、フェア期間中の土・日・祝日を利用して常時 5～6 名のスタッフが朝から夕方まで、1 日に 50 名以上の体験者を受け入れて頑張りました。

**山崎:** あの頃は手弁当で、ゴーヤの佃煮とかを持ち寄って。

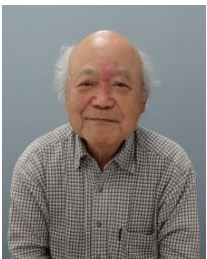
**山崎:** 営業は古荘さん、呼び込みは川瀬さん、支援学校の先生で手話が得意な会員もいたりして、各々が得意分野を発揮していました。

**黒瀬:** 田主丸町(久留米市)で苗木生産をしている会員の栗木さんに、こけ玉に使う苔や苗木をお願いして、スタッフにこけ玉の作り方も指導してもらいました。今は亡き苗木生産者の赤司さんも苗を提供するなど協力的でした。

**青崎:** 花どんたく期間中の「第 5 回 園芸福祉全国大会 in ふくおか」開催は、大変だったのを今でも覚えています。

**山崎:** 「園芸福祉全国大会」を成功させるために九州がんセンター様に協力をお願いし、施設をお借りして初級園芸福祉養成講座も開きました。

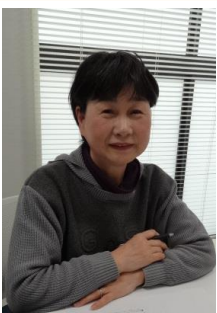
**山崎:** 平成 22 年にアクロス福岡・円形ホールで開催した第 9 回園芸福祉シンポジウム in 福岡では、一人 5 分間発表の形式を提案して、のちに福岡方式と云われ好評でした。



青崎 安孝さん

## Profile

入会/平成 16 年(1 期生)  
平成 18 年～25 年 副代表  
平成 26 年～現在 相談役



黒瀬 恵子さん

## Profile

入会/平成 16 年(1 期生)  
平成 18 年～25 年 副代表  
平成 26 年～現在

副代表・事務局長

**黒瀬:** 外からと内からのパワーが一気に集まり進んできました。自分たちの手で初めて開催した初級園芸福祉士養成講座、そして全国大会や緑化フェアでの自主企画、シンポジウム、韓国との交流、みんな良く頑張りましたよね。

皆さんのお話を聞いているだけで、目が回りそうな忙しさですね。では、園芸福祉との出会いでご自身の活動に変化したことはありますか。



**黒瀬:** 自分の庭だけで楽しんでいた趣味の園芸から、園芸福祉と出会って一步外に出て活動するようになり、世界が大きく広がりました。

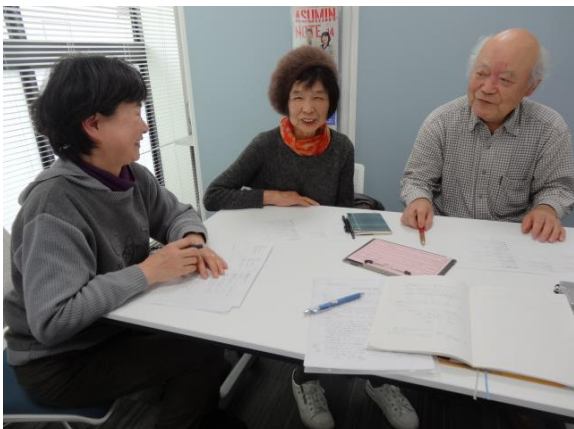
**青崎:** 園芸福祉がどんなものかも知らないまま、初級園芸福祉養成講座を受講して、園芸福



祉ふくおかネットの活動に飛び込み、手さぐり状態で進みながら勉強しました。その中で植物と関わりながらいろいろな人との繋がりもできました。私が住む古賀市のえんがわくらぶで、独り住まいの高齢者に子どもたちがお花を届ける『お花をどうぞ』を10年間活動してきましたが、時代の流れでしょうか、この活動の継続は現在検討

中です。これからも地域と繋がりながら楽しく活動を続けていきたいと思っています。

**最後に園芸福祉活動の将来について聞かせてください。**



**青崎:** 活動当初は、古賀市がハーブを育成するビニールハウスの施設を建ててくれました。ここ数年の老朽化に伴い施設の修理をお願いに行ったのですが、予算的に厳しいですねと、一度は断られましたが、再度お願いに行き補修してもらえ

ることになりました。今後ますます深刻化する高齢社会を豊かなものにするためにも、高齢者が花や緑と触れ合いながら余暇を楽しむことができるよう園芸福祉活動に市民と行政が協働できる社会になってほしいです。

**山崎:** 高齢者施設や支援学校で園芸活動を受け入れているところは、まだまだほんの一部です。医療機関や関係者の方々に、花や植物が持つ不思議な力に関心を持ってほしいと思います。植物の効能や効果。検証・症例実験をしていただき、社会的に園芸福祉活動の重要性を周知してくださることをお願いしたいですね。

**黒瀬:** 15年前、若葉マークをつけて突っ走って来た私達も、そろそろ、もみじマークが相応しい歳になりつつあります。これからは後継者を育て組織を若返らせて行くこと、そして、より魅力ある組織になるよう考えて行くこと、これまで多くの方が関わり育てて来た「園芸福祉ふくおかネット」が、20周年、30周年を迎えられるよう、より成長していくことを願っています。

## 苔玉とハンギングバスケット作りの改良を重ねた道のり 黒瀬 恵子



2005 緑化ふくおかフェアこけ玉体験講座の様子

2005年、第22回全国都市緑化ふくおかフェアの開催期間中、土・日・祝日に園芸福祉の庭で来場者を対象に苔玉講座を行い、1,000名以上の方に体験していただきました。この苔玉講座は園芸福祉ふくおかネットにとって記念すべき初めての体験講座で、多くの会員がスタッフとして参加し、フェアが終わる頃には自ら「苔玉は園芸福祉ふくおかネットの十八番」と、言うまでになりました。

スタッフの間では、準備するケト土の大きさや糸の長さは「このくらい」で通用していましたし、その後のイベントでも何も問題ありませんでした。しかし、そんなやり方が通用しなくなった時がありました。特別支援学校の生徒さんに苔玉づくりを授業の中で指導させていただいた時です。生徒さんには、このくらいと言う「適量」が通用しません。「どう伝えれば分かってもらえるだろうか」と考えた末、ケト土は耳たぶの硬さに練ったものを130g、糸は2.5mなど、計量化すれば良いことに気がきました。作り方も、障がいがあるのでどう伝えれば分かってもらえるだろうか、と考えたことが、実はそれは障がいがあってもなくても同じだと言うことに気づかされました。

ハンギングバスケット作りも、作業中に手が当たって容器を倒さないよう容器を固定するスタンドを作ったり、一つ一つの作業を前に出てきてもらって確認をしながら作ってもらったり、最初から作ることが難しい場合は、スタッフが事前に容器側面の植え込みをしておき、体験者には天部の植え込みだけしていただくなど、相手の目線に立ち、工夫することで、特別支援学校の生徒さんや高齢者施設の利用者さんにも楽しく体験していただき、達成感を味わっていただいています。「福」も「祉」も幸せの意。これからも園芸を通してお互いが幸せになれるような活動をしていきたいと思っています。



苔玉見本



高齢者施設でハンギングバスケットづくり



苔玉用ケト土の計量

## 久留米の活動 15年間を振り返って 栗木トシ子

緑豊かな耳納連山の裾野に広がる自然に「癒されに来てほしい」と、2011年から田主丸市の花好き10数軒で「田主丸オープンガーデン」を開催し、趣のある自慢の庭を一般公



開しています。毎年たくさんの方々が訪れてくれます。更に4年前から、地域の活性化にもなるのではないかと近隣50軒程が、子どもから大人までを対象とした農業体験滞在型(民泊)・グリーンツーリズムを展開しています。

九州、関東地区からの修学旅行や自然学習など小・中・高等学校の生徒さんの授業の一環として、東南アジアなど海外の学生たちも受け入れをしています。生徒さんが安心して学習していただく為に食事や宿泊などを通して農業(家)での生活

を体験。又、受け入れ先の家族と同じ様に生活します。

庭木の剪定をはじめ、サクラやイチジクなど季節ごとに果樹の収穫体験、畑で育つ野菜の収穫などをしてもらい、夕飯の用意を子どもたちと一緒に作ります。

最近は食物アレルギーの子どもさん達も多いので、私たちも勉強して食材の選定には特に気を付けています。民泊に訪れたご家族や子どもたちが帰るときには「楽しかったです」「また来たいです」この言葉に、毎回楽しく交流しながら頑張っています。

学校の先生からは民泊後「子どもたちの顔が変わり、イキイキしています」と嬉しいお手紙をいただきます。

(グリーンツーリズムとは農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動です)



民泊先で水遊びを楽しむ子どもたち



畑見学では畑の広大さに驚かれます

## 「新聞紙とセメントで作るエコ鉢(植木鉢)の取り組み」 辻 和広

私が「新聞紙とセメント」の素材に出会ったのは2006年7月に出版された大野 月子 著「魔法の鉢づくり(出版社/小学館クリエイティブ)」でした。この本に感銘を受け「これを実践してみよう!」と、2008年4月から勤務していた知的障がいのある生徒が通う特別支援学校 高等部で、1年6ヵ月の準備期間を経て、工芸 作業学習で新聞とセメントを使った「エコ鉢」に取り組み始めました。



最初はセメントが上手に固まらず形もバラバラで苦労の連続でしたが、徐々に完成度も増し、コケ玉の受け皿を中心に製作しました。受け皿とコケ玉の相性も良く、初年度には生徒たちと試行錯誤しながら500枚の受け皿を完成させました。

本校の学園祭では陶工科、木工科など科ごとの販売活動があります。

私が担当していた工芸科の生徒8名とエコ鉢づくりに取り組み、2年目から受け皿とコケ玉のコラボ製品「こけ玉くん(写真参照)」の販売を始めました。生徒たちが一生懸命に作ったこけ玉くんは、見る人が「笑顔になる!」と、販売当初からとても人気で50個が30分で完売!しました。



年々これを目当てに地域の方々が来校され、学園祭開始前から長蛇の列ができ、学校の名物として喜ばれる製品となりました。

その後も10年間、工芸科では様々な形にも取り組み、現在までに約15,000個は作ったのではないのでしょうか。一冊の本との出会いから始まった挑戦でしたが、紆余曲折しながらの「モノづくり」は生徒たちの成長を感じると共に、教育に携わる者として学ぶことも多く充実した日々でした。

障がいのある生徒の就労への意識付けとして「新聞紙とセメント」を使ったエコ鉢やエコ皿作りはとても良い素材だと思います。現在は小規模ですが、製作を継続しています。そしてこれからも続けて行きたいと思っています。

## 事務局からのお知らせ

### ▶ 園芸福祉ふくおかネット定例会

- 毎月/第3土曜日 13:30~15:30
- ところ/福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」天神クラス4階  
事業活動報告と計画、会員の活動状況、園芸福祉活動の情報交換、作品紹介など。
- お気軽にご参加ください。

### ▶ 「園芸福祉の庭」定例作業日

- 定例作業/第2月曜日・最終日曜日  
10時~12時（6月~10月は9時~11時）
- ところ/アイランドシティ中央公園  
園芸福祉の庭（福岡市東区香椎照葉4丁目）  
活動内容は花壇の維持管理（花がら摘み、除草、花苗植込み・撤去、水やり、施肥など）。  
作業後は茶話会。活動近況や花の育て方・土づくり、園芸福祉に関するプチ勉強会など。
- 豪雨や気象災害などが予想されるときは中止、次週に変更です。（小雨決行）

### ▶ 入会手続きのご案内

- 入会を希望される方は事務局（下記掲載）にご連絡下さい。その後下記の口座に年会費2,000円をお振り込み頂き、入金確認後に入会となります。
- 活動を一緒にされているお仲間やお友だちなどで、まだ園芸福祉ふくおかネットの会員でない方がいらっしゃいましたらお気軽にお誘いください。
- お振り込み先/ 西日本シティ銀行 小笹支店  
店番 222 普通預金  
口座番号 1025817  
園芸福祉ふくおかネット 代表 谷口 博隆



### ● 園芸福祉ふくおかネット事務局 ●

〒810-0033 福岡市中央区小笹 1-9-25

TEL : 090-8626-1586 (黒瀬)

FAX : 092-521-6247

E-mail : [engeifukusi.fukuoka@hya.bbiq.jp](mailto:engeifukusi.fukuoka@hya.bbiq.jp)

URL : <https://www.engeifukusi-fukuoka.net/>

花便り 第51号 令和元年 5月18日

編集・発行/ 園芸福祉ふくおかネット